



- ①錦絵の明かりが人々を照らす／
- ②たくさんの人が賑わう大雪像前／
- ③来場者を迎える雪燈籠／
- ④キャンドルが灯る道を歩く／
- ⑤二人の笑顔をスマホに残す／
- ⑥温かな光が浮かび上がるミニかまくら／
- ⑦幻想的な大雪像プロジェクションマッピング／
- ⑧雪像と一緒にハイチーズ！／
- ⑨ピンク色にライトアップされた桜の木／
- ⑩雪のアートに挑戦／
- ⑪すべり台で大興奮！



ずっと変わらない 市民が作る雪のまつり

春には色とりどりの桜が咲き誇り、訪れる人に驚きと笑顔を与える弘前公園。1918年（大正7年）から始まった観桜会（さくらまつり）や、1962年（昭和37年）に始まった菊と紅葉まつりに続き、冬に



も弘前公園での楽しみを作ろうと「弘前城雪燈籠まつり」が始まったのは1977年（昭和52年）のことでした。

ただ見るだけではなく、「市民がつくるまつり」を目指して始まったこのおまつり。始まってから40年以上経った現在も、園内各所にある個性豊かな雪燈籠や雪像は、市内の小・中・高校生をはじめ、各種団体の協力によって、一つ一つ手作業で作りあげられています。

昼には多くの子どもたちが雪で作られた大すべり台を楽しみ、夜になるとほのかに灯る温かな燈籠の光が人々の心を癒やす——。「弘前城雪燈籠まつり」は弘前ならではの雪を楽しむ冬の行事となっています。



▲第1回目の雪燈籠まつりの大雪像は弘前城天守と津軽為信がテーマ。当初から完成度の高さがうかがえる